

令和7年度
北しりべし廃棄物処理広域連合温暖化対策推進実行計画
推進状況

1. 実行計画の削減目標

2013（平成25）年度を基準年度として、計画期間の最終年度である2030（令和12）年度の温室効果ガス総排出量を14%削減する。
（計画期間：2018（平成30）～2030（令和12）年度）

2. 令和7年度 温室効果ガス排出量実績

表1. 温室効果ガス排出状況

温室効果ガス	調査項目	平成25年度 (トン-CO ₂)	令和7年度 (トン-CO ₂)	増減量 (トン-CO ₂)	増減率 (%)	
二酸化炭素	廃棄物焼却	19,997	7,022	▲ 12,975	▲ 64.9	
	燃料消費	灯油	1,053	153	▲ 900	▲ 85.5
		ガソリン	3.4	1.3	▲ 2.1	▲ 62.5
		軽油	40	31	▲ 9	▲ 23.0
	購入電力	389	384	▲ 5	▲ 1.2	
	売却電力	▲ 2,170	▲ 1,454	716	33.0	
	小計	19,312	6,137	▲ 13,175	▲ 68.2	
メタン	廃棄物焼却	1.0	2.1	1.1	110.0	
	自動車使用	0.0076	0.0000	▲ 0.0076	▲ 100.0	
	小計	1.0	2.1	1.1	108.5	
一酸化二窒素	廃棄物焼却	725	296	▲ 429	▲ 59.2	
	自動車使用	0.18	0.00	▲ 0.18	▲ 100.0	
	小計	725	296	▲ 429	▲ 59.2	
ハイドロフルオロカーボン	カーエアコン	0.086	0.000	▲ 0	▲ 100.0	
	小計	0.086	0.000	▲ 0	▲ 100.0	
温室効果ガス排出量合計		20,039	6,436	▲ 13,603	▲ 67.9	

※端数処理により割合・合計が合わない場合がある。

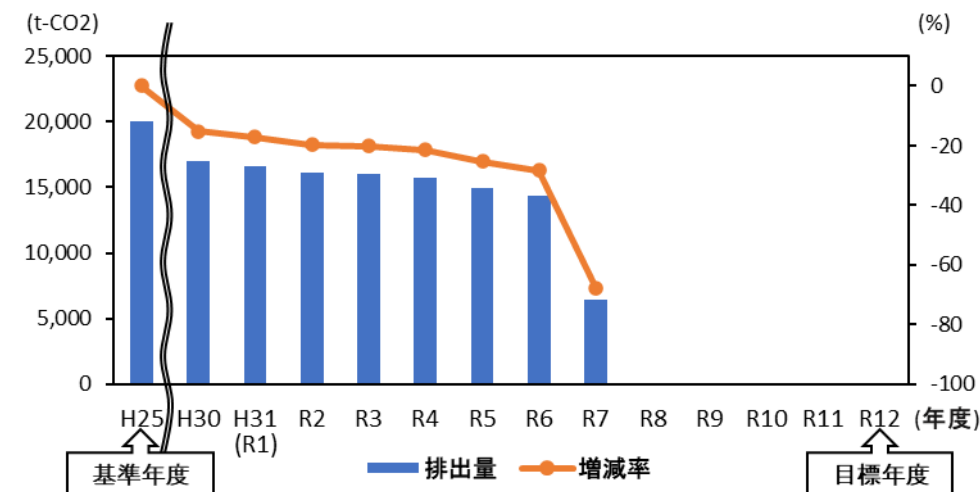


図 1. 温室効果ガス総排出量の推移

3. 結果の評価

令和 7 年度における温室効果ガス総排出量は 6, 4 3 6 トンで、基準年度の平成 2 5 年度と比較すると 1 3, 6 0 3 トン減少し、増減率は 6 7. 9 % 減であった。

調査項目別では、令和 6 年度から着工となったごみ焼却施設基幹的設備改良工事の影響により焼却炉の稼働日数が減少し、売却電力量が減少となったため、売却電力については二酸化炭素排出量が増加しているが、その他の項目の二酸化炭素排出量は減少した。また、地球温暖化対策推進法改正に伴い、自動車走行に伴うメタン、一酸化二窒素、カーエアコン使用に伴うハイドロフルオロカーボンが算定項目から削除となったことから、排出量は 0 となっている。(表 1)

温室効果ガス総排出量については、令和 6 年度と比較して、大幅に減少しているが、これは、地球温暖化対策推進法改正に伴い、排出量算出に用いる係数が変更となったことが大きな要因となっている。また、削減目標については令和 7 年度も達成しており、排出量についても基準年度から順調に減少している。(図 1)